

2019年3月期 第2四半期 決算説明会

2018年11月20日

 **古河機械金属株式会社**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

決算および予想(連結)

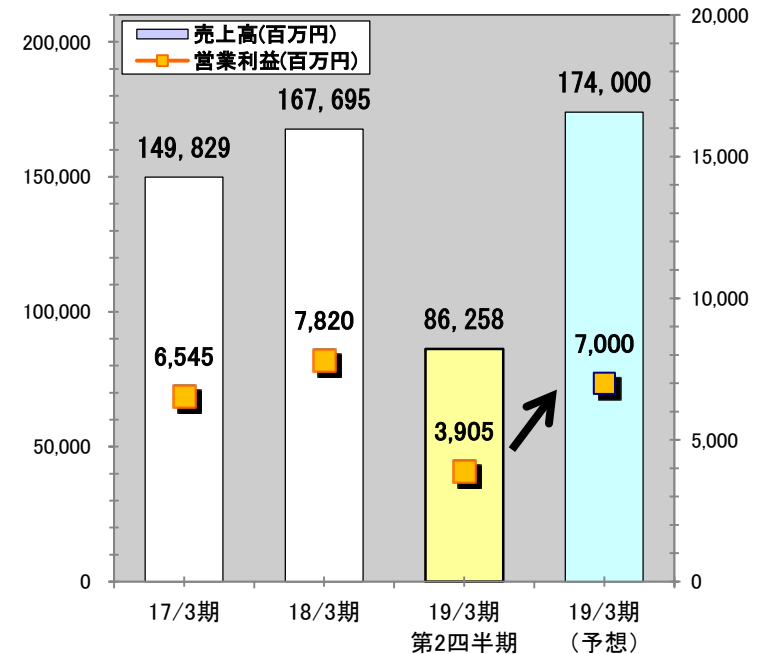
【業績】

(単位:百万円)

	18年3月期 第2四半期	19年3月期 第2四半期	対前年同期 増減	18年3月期	19年3月期 予想	対18/3期 増減
売上高	80,102	86,258	6,156	167,695	174,000	6,304
営業利益	3,943	3,905	△37	7,820	7,000	△820
営業利益率	4.9%	4.5%	△0.4%	4.7%	4.0%	△0.7%
経常利益	4,747	4,218	△529	8,105	6,100	△2,005
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,486	2,964	477	4,774	4,000	△774

【財務状況】

		18年3月期	19年3月期 第2四半期	対18/3期 増減
総資産	百万円	222,211	225,739	3,527
純資産	百万円	87,086	86,364	△722
自己資本比率	%	38.3	37.3	△1.0



部門別業績(連結)

〔売上高〕

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	対前年同期増減
機械事業	35,215	37,119	1,903
産業機械部門	5,675	7,182	1,507
ロックドリル部門	15,684	15,656	△28
ユニック部門	13,855	14,280	424
素材事業	42,775	47,090	4,314
金属部門	36,621	40,670	4,048
電子部門	2,982	3,283	301
化成品部門	3,171	3,136	△35
不動産事業	1,658	1,630	△27
その他	452	418	△33
合計	80,102	86,258	6,156

	2019年3月期 第1,2四半期実績	対前年同期増減
銅 価	6,487 \$/ト	482 \$/ト
為 替	110.3円/\$	△0.8円/\$

〔営業利益〕

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	対前年同期増減
機械事業	2,127	2,547	419
産業機械部門	△117	294	412
ロックドリル部門	923	972	48
ユニック部門	1,321	1,280	△41
素材事業	1,219	751	△467
金属部門	912	269	△642
電子部門	66	240	173
化成品部門	239	241	1
不動産事業	708	702	△5
その他	△77	△62	15
調整額	△33	△32	0
合計	3,943	3,905	△37

金属部門の金属価格変動影響による損益について

2019年3月期第1四半期(発表時)

営業利益 5.5億円
 内、価格影響分+5億円(銅+4.5億、金+0.6億)

2019年3月期第2四半期(発表時)

営業利益 2.7億円
 内、価格影響分+2億円(銅+4.5億、金▲2億)

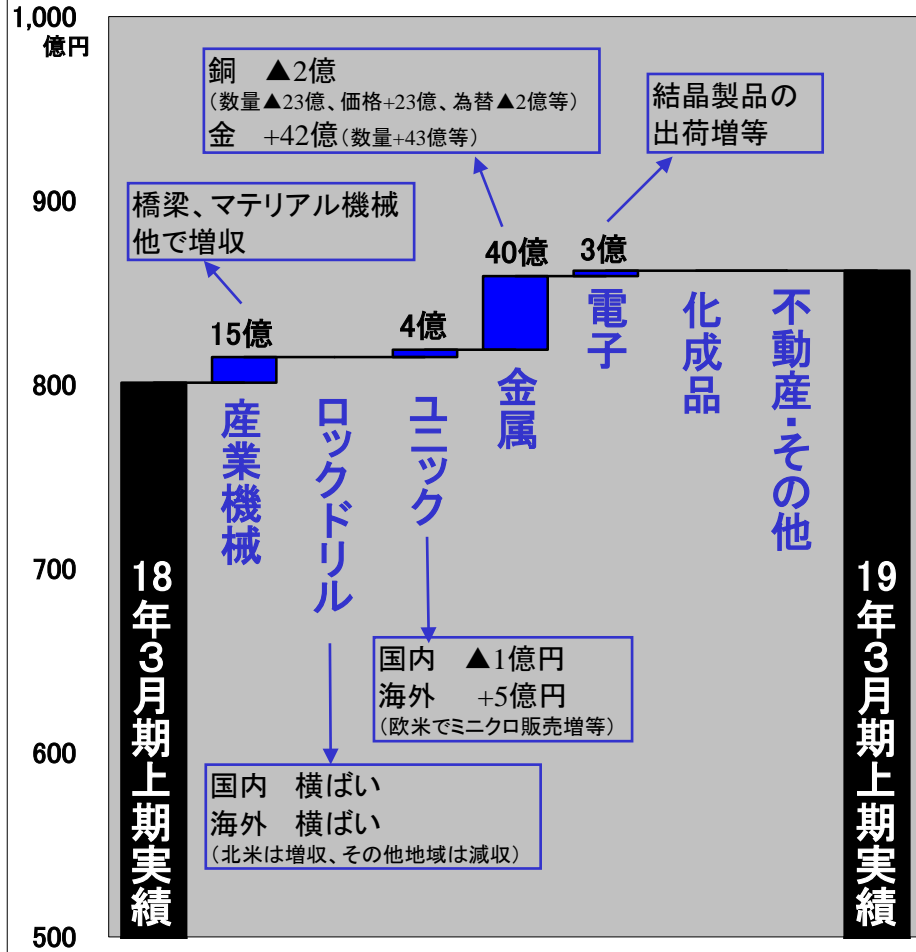
部門別業績の増減(連結) / 対前年同期

売上高

801億

61億増(8%増)

862億

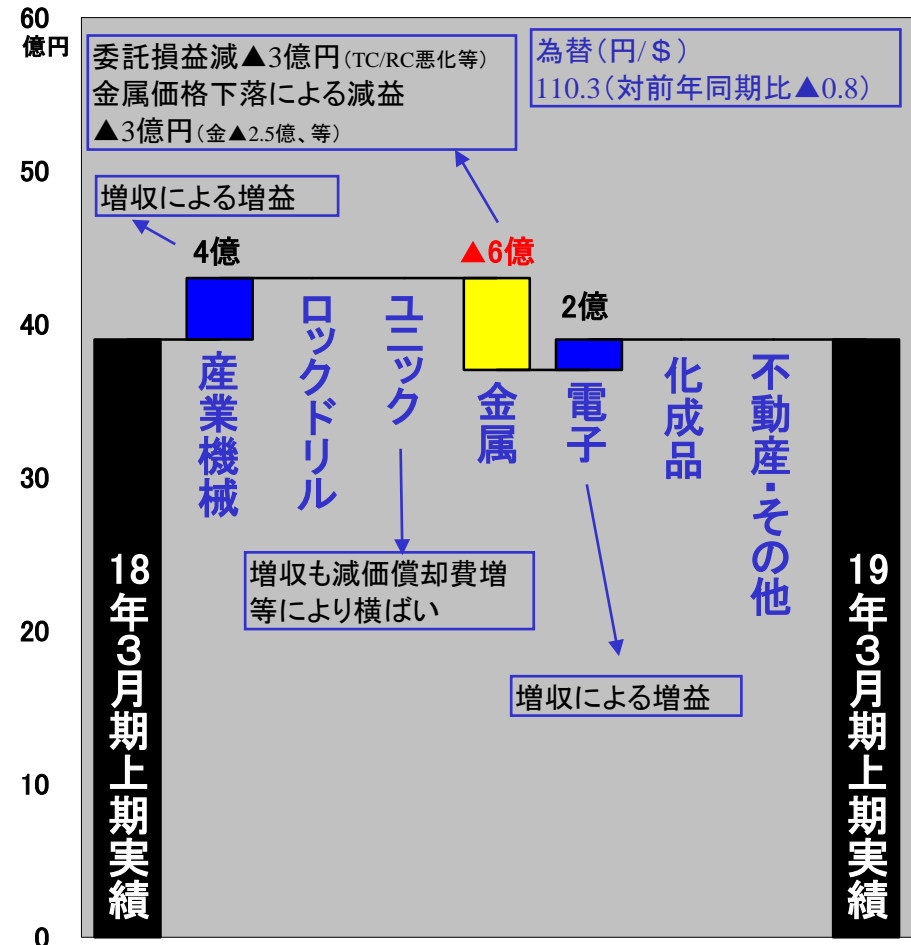


営業利益

39億

横ばい(±0)

39億



産業機械、電子部門は増収増益、金属部門は買鉱条件悪化や金価格下落等で減益

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期	対前年同期増減
売上高	80,102	86,258	6,156
売上原価	67,477	73,517	6,040
(売上総利益)	12,625	12,741	116
販売費及び一般管理費	8,681	8,835	153
営業利益	3,943	3,905	△37
営業外収益	1,519	1,111	△407
受取配当金	375	442	66
為替差益	421	308	△112
その他	721	359	△362
営業外費用	714	798	83
支払利息	307	283	△23
休鉱山管理費	289	334	44
その他	117	180	62
経常利益	4,747	4,218	△529
特別利益	15	92	77
投資有価証券売却益	7	76	68
その他	7	16	8
特別損失	1,245	75	△1,170
固定資産除売却損	20	22	1
減損損失	102	48	△53
テナント退去補償関連費用	1,041	-	△1,041
その他	80	4	△76
税金等調整前四半期純利益	3,518	4,235	717
法人税、住民税及び事業税	783	612	△170
法人税等調整額	173	558	384
四半期純利益	2,561	3,064	503
非支配株主に帰属する四半期純利益	74	100	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,486	2,964	477

持分法による投資利益の減少
 ▲4億円

古河大阪ビル閉館に伴う費用

連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	対2018年3月期 増減
資産の部			
流動資産	87,845	91,816	3,970
固定資産	134,366	133,923	△442
有形固定資産	88,965	89,854	888
無形固定資産	227	222	△5
投資その他の資産	45,172	43,846	△1,325
資産合計	222,211	225,739	3,527
負債の部			
流動負債	79,322	78,240	△1,081
固定負債	55,802	61,134	5,331
負債合計	135,124	139,374	4,249
純資産の部			
株主資本	66,714	67,691	977
資本金	28,208	28,208	—
利益剰余金	38,573	39,551	977
自己株式	△67	△68	△0
その他の包括利益累計額	18,297	16,538	△1,759
非支配株主持分	2,074	2,135	60
純資産合計	87,086	86,364	△722
負債・純資産合計	222,211	225,739	3,527

現金及び預金の増加
+51億円

株価下落による投資有価証券の減少
▲12億円

株価下落による
その他有価証券評価差額金の減少
▲11億円

■有利子負債(借入金)

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 第2四半期	対2018年3月期 増減
短期	9,225	9,784	559
長期 (1年以内返済を含む)	64,086	67,322	3,236
有利子負債合計	73,311	77,107	3,796

2019年3月期業績予想(連結)

【業績予想】

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 (予想)	対2018年3月期増減
売上高	167,695	174,000	6,304
営業利益	7,820	7,000	△820
経常利益	8,105	6,100	△2,005
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,774	4,000	△774

経常利益、当期純利益について

連結業績予想の修正を発表(11月7日)しましたが、内外の不透明な情勢から決算期末日における為替相場が見通せないため、経常利益、当期純利益については、修正していません。

【前提条件】

	2018年3月期	2019年3月期 (予想)	対2018年3月期増減
銅 価	6,444 \$/ト	6,344 \$/ト	△100 \$/ト
為 替	110.9円/\$	110.1円/\$	△0.7円/\$

為替感応度について

1円の円安で年間約1億円の営業利益増

- ・機械事業(主にロックドリル)で約50~60百万円増
- ・金属部門で約40~50百万円増

【売上高】

(単位:百万円)

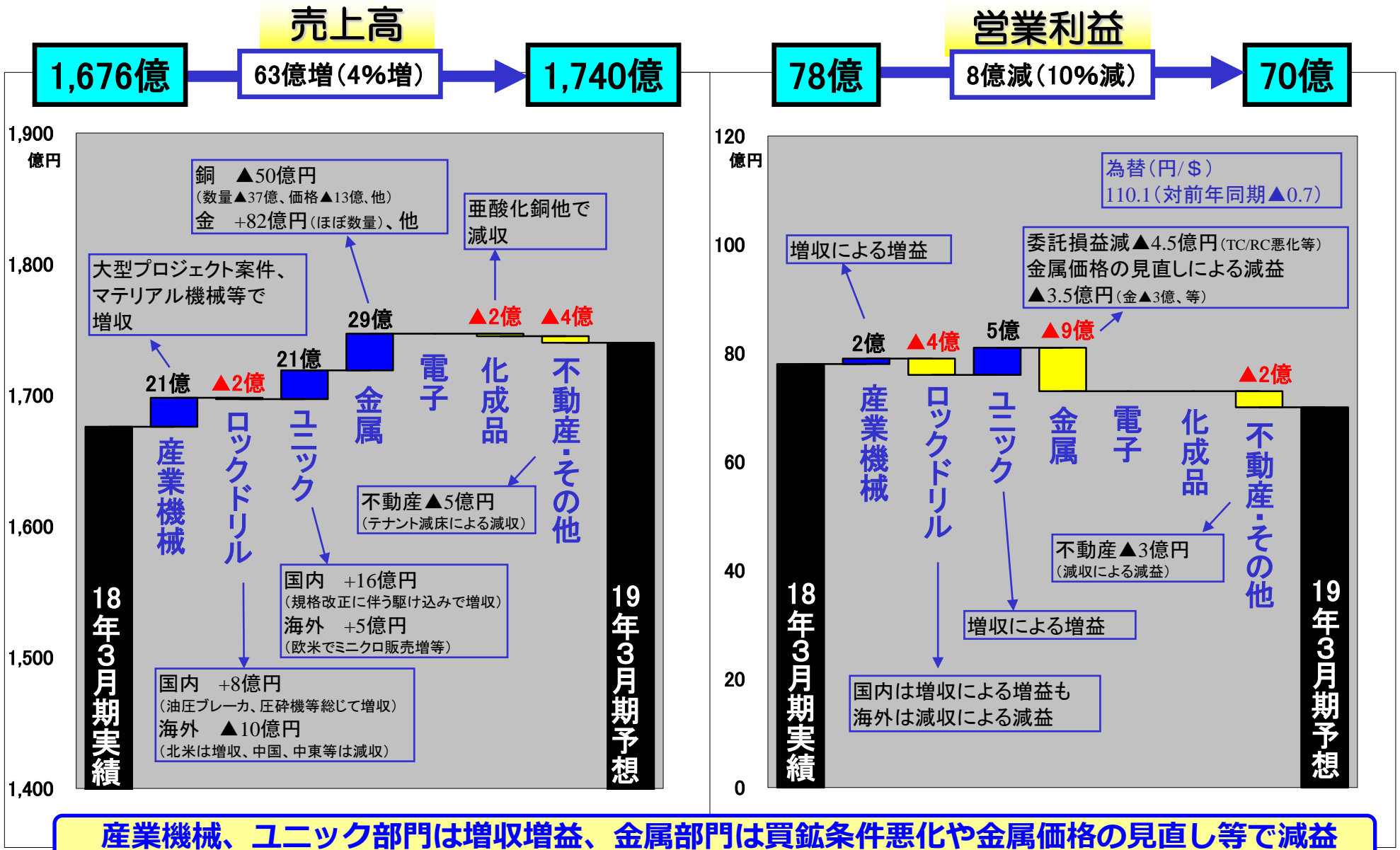
	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018年3月期増減
機械事業	73,453	77,500	4,046
産業機械部門	15,871	18,000	2,128
ロックドリル部門	30,199	30,000	△199
ユニック部門	27,381	29,500	2,118
素材事業	89,987	92,600	2,612
金属部門	77,334	80,200	2,865
電子部門	6,307	6,300	△7
化成品部門	6,344	6,100	△244
不動産事業	3,338	2,800	△538
その他	916	1,100	183
合計	167,695	174,000	6,304

【営業利益】

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年3月期 予想	対2018年3月期増減
機械事業	5,083	5,400	316
産業機械部門	1,005	1,200	194
ロックドリル部門	1,782	1,400	△382
ユニック部門	2,295	2,800	504
素材事業	1,648	750	△898
金属部門	867	0	△867
電子部門	330	350	19
化成品部門	451	400	△51
不動産事業	1,339	1,000	△339
その他	△196	△100	96
調整額	△55	△50	5
合計	7,820	7,000	△820

2019年3月期部門別業績予想の増減/ 対前年



2019年3月期業績予想の修正推移(連結)

〔売上高〕

	2018年5月10日発表
機械事業	77,000
産業機械部門	18,500
ロックドリル部門	30,000
ユニック部門	28,500
素材事業	88,100
金属部門	75,700
電子部門	6,300
化成品部門	6,100
不動産事業	2,800
その他	1,100
合計	169,000

2018年8月6日発表	8月6日発表 対 5月10日発表	機械事業のみ修正 他は見直さず
77,000	-	
17,600	△900	大型プロジェクトの期ずれ
30,400	400	上期の北米増収他を反映
29,000	500	上期の中国増収他を反映
88,100	-	
75,700	-	
6,300	-	
6,100	-	
2,800	-	
1,100	-	
169,000	-	

大型プロジェクトの期ずれ
上期の北米増収他を反映
上期の中国増収他を反映

(単位:百万円)

2018年11月7日発表	11月7日発表 対 8月6日発表
77,500	500
18,000	400
30,000	△400
29,500	500
92,600	4,500
80,200	4,500
6,300	-
6,100	-
2,800	-
1,100	-
174,000	5,000

ロックドリル部門の北米向け油圧クローラドリルの販売状況について(予想との乖離)

期初の反動減予想に対し販売が伸びた要因
・堅調な米国景気
・競合他社は規制後の機種のみを販売
 当社の規制前の機種に割安感が出た

この結果
販売台数予想 5-10%増(前期比)と想定
規制前の機種の販売は10%強増加と見込む
(上期で進捗率65%強、下期は季節要因で減)

今後の予想
・今期で規制前の機種の在庫はほぼなくなる
・来期は規制後の機種の販売となる
・特需はなくなり販売は巡航速度に戻る

〔営業利益〕

	2018年5月10日発表
機械事業	4,500
産業機械部門	1,000
ロックドリル部門	1,100
ユニック部門	2,400
素材事業	1,150
金属部門	400
電子部門	350
化成品部門	400
不動産事業	1,000
その他	0
調整額	△150
合計	6,500

2018年8月6日発表	8月6日発表 対 5月10日発表	機械事業のみ修正 他は見直さず
5,000	500	
1,000	-	
1,300	200	増収による増益
2,700	300	増収による増益
1,150	-	
400	-	
350	-	
400	-	
1,000	-	
△100	△100	
△50	100	
7,000	500	

増収による増益
増収による増益

(単位:百万円)

2018年11月7日発表	11月7日発表 対 8月6日発表
5,400	400
1,200	200
1,400	100
2,800	100
750	△400
0	△400
350	-
400	-
1,000	-
△100	-
△50	-
7,000	-

金属部門の金属価格の前提条件見直しによる損益影響について

2019年3月期予想
営業利益 0億円
 内、価格影響分▲2.5億円

主に金価格の下期前提条件を1,250→1,200\$/ozに見直したことにより損益悪化を見込む

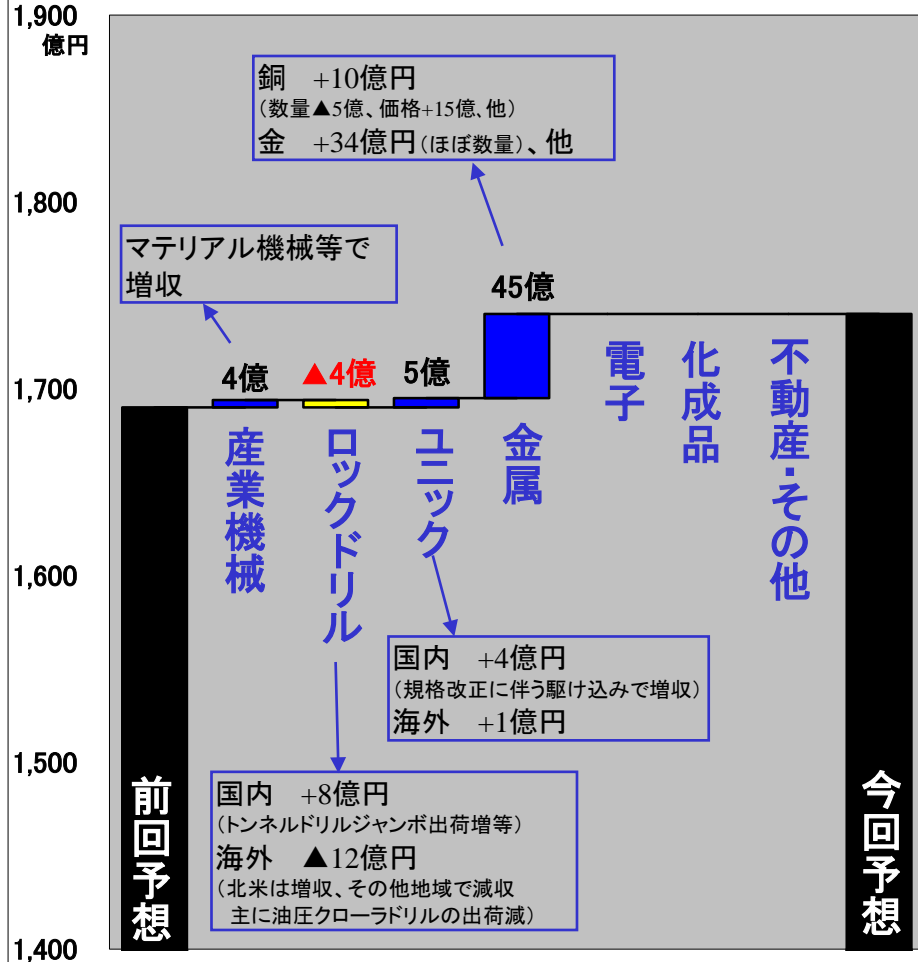
2019年3月期部門別業績予想の増減/ 対前回予想 (8月6日発表)

売上高

1,690億

50億増(3%増)

1,740億

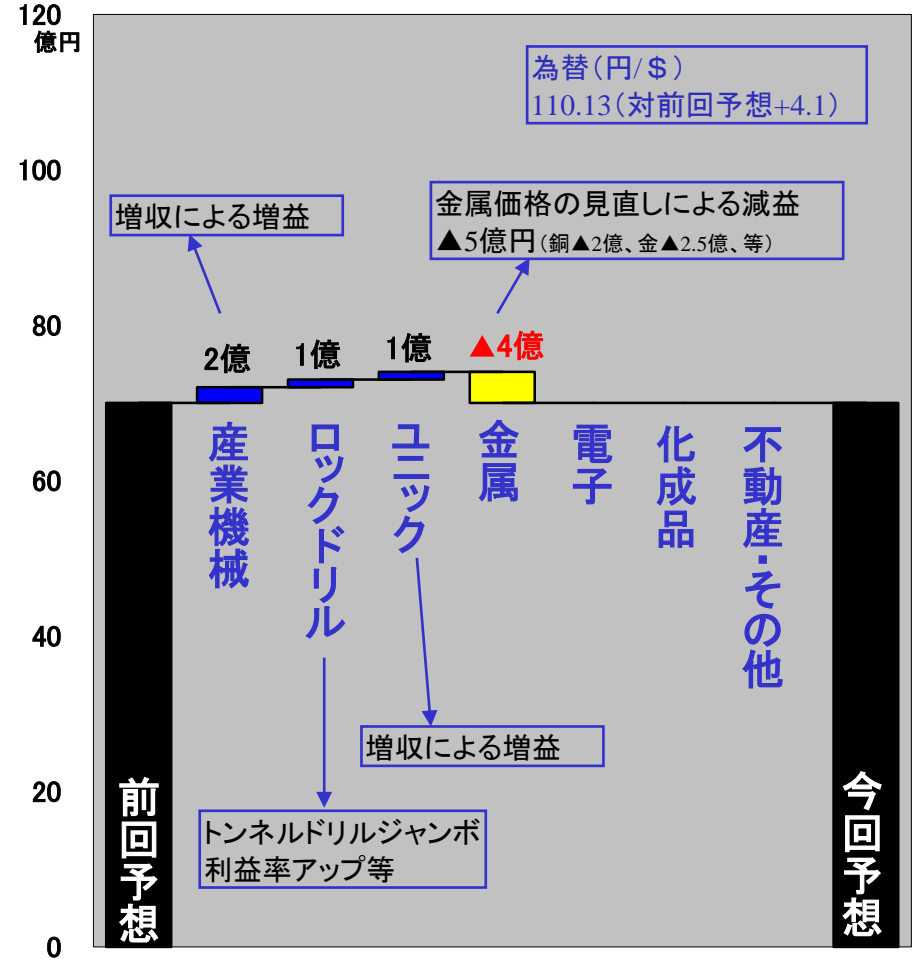


営業利益

70億

横ばい(±0)

70億



機械3部門で増益も、金属部門の金属価格の見直し等による減益が響く

設備投資・減価償却費・研究開発費の状況(連結)

【設備投資の状況(連結)】

(単位:百万円)

設備投資額	2017年3月期	2018年3月期		2019年3月期	
		(第2四半期)	(通年)	(第2四半期)	(通年予想)
機 械 事 業	4,327		4,215		6,000
産 業 機 械 部 門	207		358		300
ロ ッ ク ド リ ル 部 門	595		535		3,100
ユ ニ ッ ク 部 門	3,524		3,321		2,600
素 材 事 業	412		301		400
そ の 他	685		505		600
合 計	5,424	1,960	5,021	2,720	7,000

高崎吉井工場の
設備投資スタート
4年約65億円

佐倉工場の
設備投資進行中
3年約90億円

【減価償却費の状況(連結)】

減 価 償 却 費	3,137	1,635	3,260	1,712	3,500
-----------	-------	-------	-------	-------	-------

【研究開発費の状況(連結)】

研 究 開 発 費	2,464	1,137	2,292	765	1,700
-----------	-------	-------	-------	-----	-------

金属製品・為替・従業員の状況(連結)

【金属製品・為替の状況(連結)】

		2017年3月期	2018年3月期		2019年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(第3,4四半期想定)
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	233.8	272.4	292.3	294.3	281.2
	\$/トン	5,154	6,005	6,444	6,487	6,200
円相場 対米ドル平均(円/\$)		108.42	111.06	110.85	110.26	110.00

《古河メタルリソース㈱生産販売》		2017年3月期	2018年3月期		2019年3月期	
			(第2四半期)	(通期)	(第2四半期)	(通年予想)
銅 生産量(t)		84,062	45,563	88,004	41,956	83,471
銅 販売量(t)		91,294	46,095	90,103	42,581	84,849

【従業員の状況(連結)】

	2017年3月末	2018年3月末	2018年9月末	対2018年3月末増減
人員(名)	2,616	2,690	2,759	69

補足資料 過去の部門別業績・業績予想・銅価

【連結業績】

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期(予想)
売上高	200,749	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,000
営業利益	16,898	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	7,000
経常利益	15,613	12,940	993	111	1,231	1,268	2,763	6,150	6,603	6,227	7,202	8,105	6,100
親会社株主に帰属する当期純利益	17,554	8,595	△5,917	585	563	△1,659	2,976	3,976	9,793	5,056	4,254	4,774	4,000

過去の部門別実績と業績予想

【売上高】

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期(予想)
機械事業	67,795	75,841	62,639	44,313	47,025	53,198	56,852	71,111	75,990	72,232	66,803	73,453	77,500
産業機械部門	14,119	17,331	15,836	12,783	10,655	12,949	12,894	18,527	16,712	14,926	14,041	15,871	18,000
ロックドリル部	33,046	37,497	29,427	20,386	23,880	24,143	23,305	26,842	30,910	30,076	26,979	30,199	30,000
ユニック部門	20,629	21,012	17,375	11,142	12,490	16,105	20,651	25,741	28,367	27,229	25,782	27,381	29,500
素材事業	100,655	112,795	80,174	82,126	92,202	77,961	88,024	90,161	93,269	85,642	78,968	89,987	92,600
金属部門	84,753	97,519	68,786	71,132	79,979	68,114	77,944	78,684	81,513	74,192	67,853	77,334	80,200
電子部門	9,364	8,751	5,568	5,969	7,147	4,615	4,987	5,381	5,743	5,477	5,816	6,307	6,300
化成品部門	6,538	6,525	5,820	5,025	5,076	5,187	5,093	6,096	6,013	5,973	5,298	6,344	6,100
不動産事業	2,936	2,758	2,386	2,043	1,577	1,233	1,058	1,013	2,535	3,045	3,074	3,338	2,800
その他	1,154	1,294	1,204	854	785	766	753	739	747	876	983	916	1,100
塗料部門(※1)	—	—	—	3,692	15,040	14,874	15,078	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	28,206	20,735	15,452	9,893	9,004	9,576	3,770	—	—	—	—	—	—
合計	200,749	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	165,539	163,026	172,544	161,799	149,829	167,695	174,000

【営業利益】

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期(予想)
機械事業	5,901	6,837	1,733	△3,022	△566	1,970	2,923	5,333	6,551	5,882	3,580	5,083	5,400
産業機械部門	72	837	767	433	△29	708	778	1,851	1,711	1,037	104	1,005	1,200
ロックドリル部	3,120	3,702	255	△2,584	△350	333	△67	341	1,225	2,217	897	1,782	1,400
ユニック部門	2,708	2,297	710	△870	△186	928	2,212	3,141	3,614	2,627	2,578	2,295	2,800
素材事業	10,924	7,660	228	3,985	3,042	325	324	1,695	1,768	983	1,870	1,648	750
金属部門	8,837	6,206	23	3,224	1,494	308	282	1,503	1,449	1,154	1,738	867	0
電子部門	1,386	984	4	657	1,279	△234	△262	△123	52	△368	17	330	350
化成品部門	701	470	201	104	269	251	304	315	267	197	114	451	400
不動産事業	839	749	706	1,128	635	356	219	△43	776	1,276	1,265	1,339	1,000
その他	△301	△228	△304	△376	△92	△93	△63	△60	△130	△72	△126	△196	△100
塗料部門(※1)	—	—	—	△19	△93	△329	65	—	—	—	—	—	—
燃料部門(※2)	△114	△430	202	△29	△56	△13	△28	—	—	—	—	—	—
調整額	△351	△181	△264	△69	△49	△60	△78	△39	△42	△80	△44	△55	△50
合計	16,898	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,363	6,886	8,925	7,988	6,545	7,820	7,000

※1 2013年3月に㈱トウベの株式譲渡により塗料部門から撤退

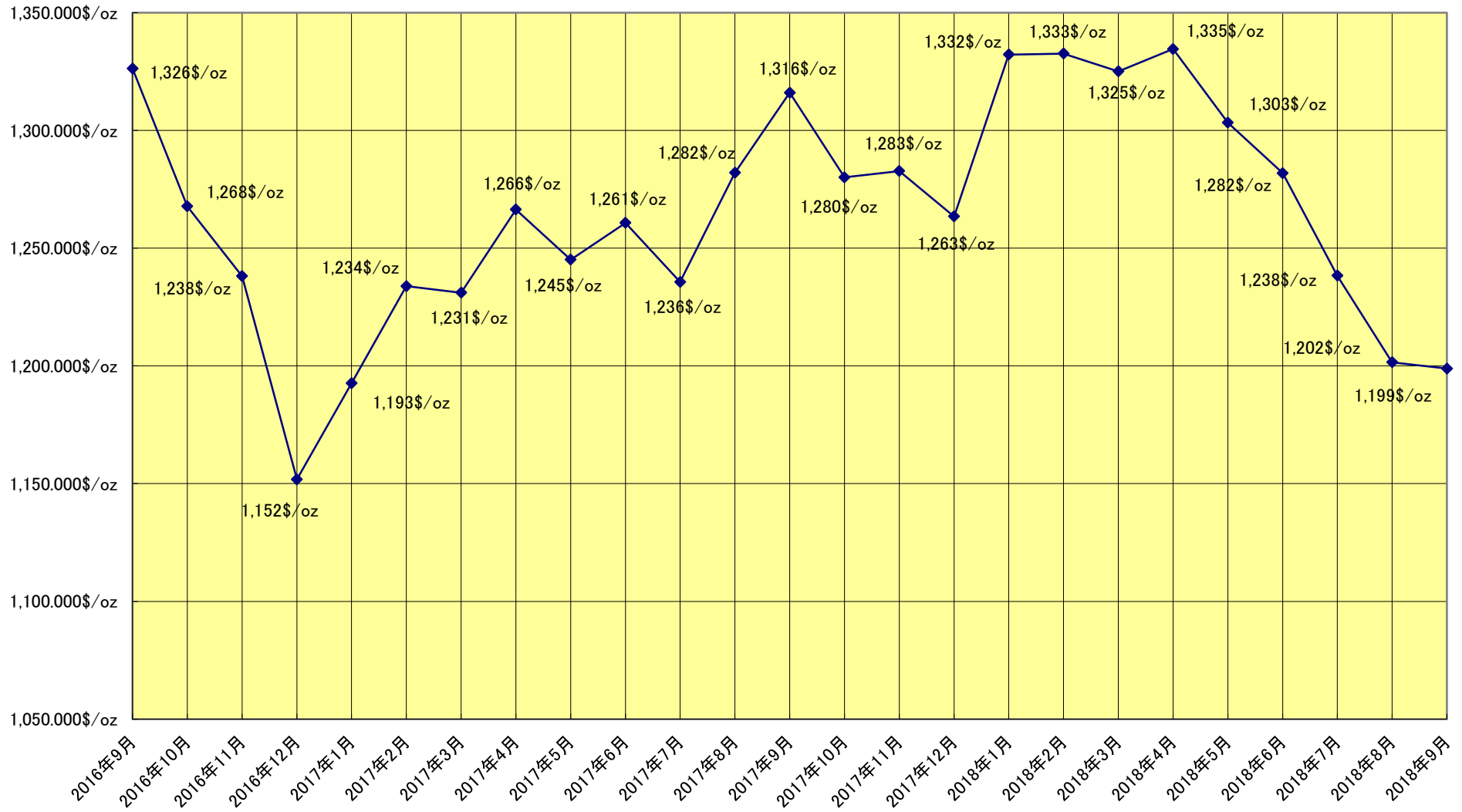
※2 2012年10月に古河コマース㈱の株式譲渡により燃料部門から撤退

注:「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

注:2016年3月期以前の売上高、営業利益の素材事業合計については、金属部門、電子部門、化成品部門の百万円以下を切り捨て、足し合わせた参考値です

銅価(\$/トンス)	6,970	7,584	5,864	6,101	8,139	8,485	7,855	7,104	6,554	5,215	5,154	6,444	6,344
為替(円/\$)	118.03	114.28	100.54	92.85	85.71	79.07	83.10	100.24	109.93	120.13	108.42	110.85	110.13

補足資料 金Au海外相場(月中平均)推移(直近2カ年)



補足資料 理解促進コンテンツ紹介

■会社紹介映像



創業140周年を機に刷新した会社紹介映像

<https://www.youtube.com/watch?v=hVFQY8Ahp0s>



インフラ整備に使用される機械製品を紹介

https://www.youtube.com/watch?v=gTszdxNNG_w



■ユニークに古河機械金属を紹介する古河気合筋肉サイト

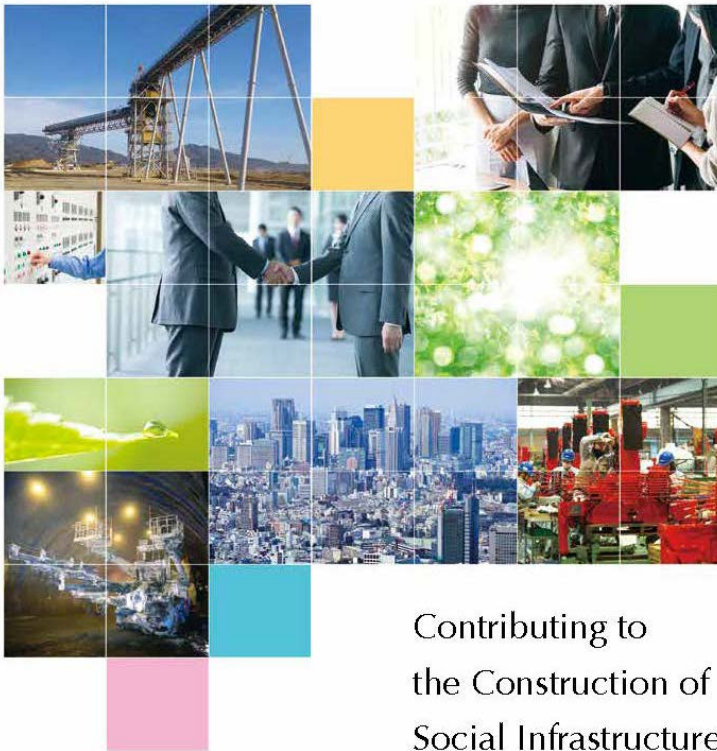


電車広告でお馴染みの古河気合筋肉
サイト内ではショートストーリー動画、古河気合筋肉VS古河気合筋肉
などのユニークなコンテンツを展開中



2019年3月期第2四半期 決算説明会

<2018年11月20日>



Contributing to
the Construction of
Social Infrastructure

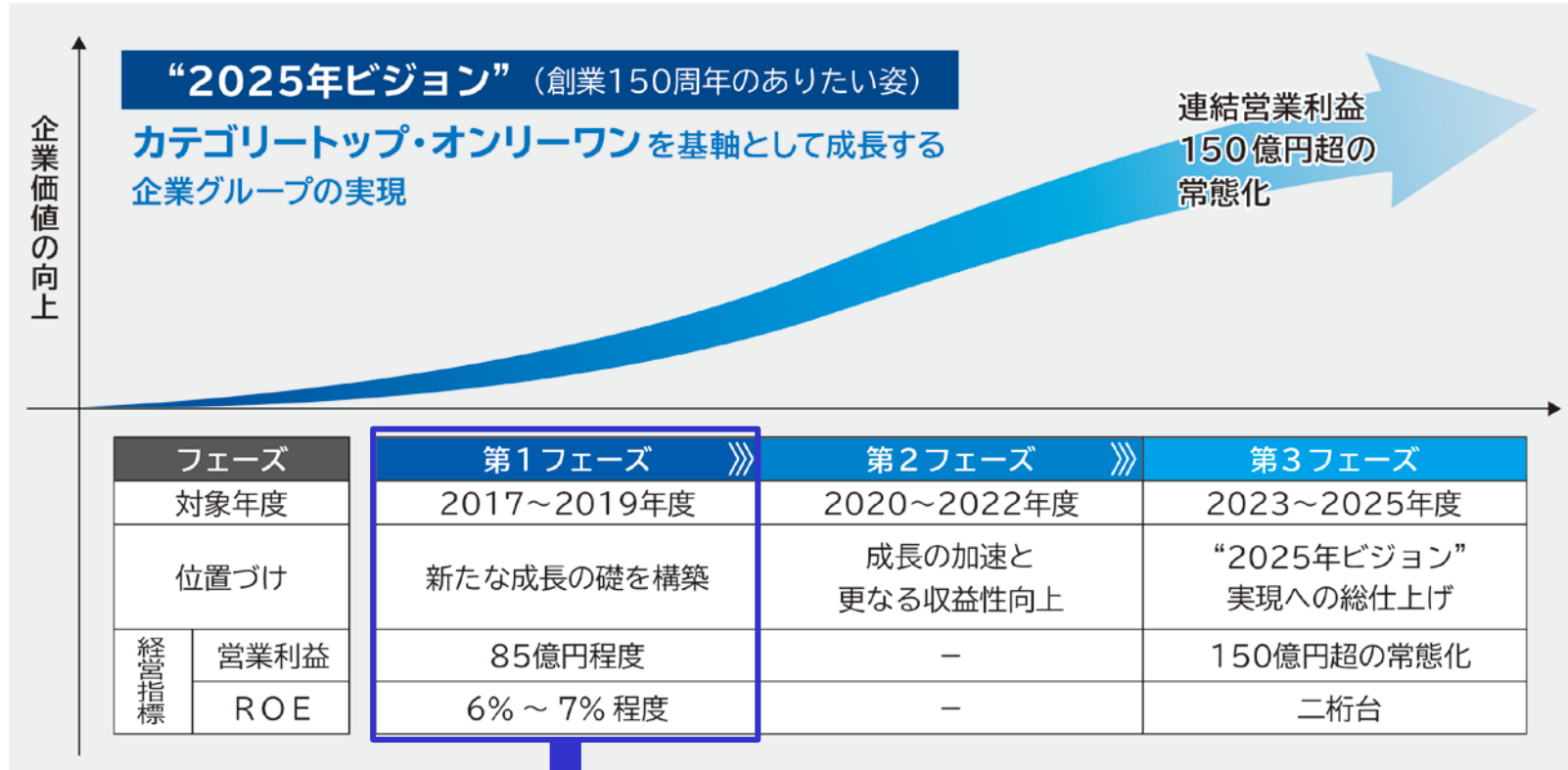
目次

1. 中期経営計画2019の進捗
2. 機械事業の事業領域と製品シェア、代表製品、基本戦略（おさらい）
3. 機械事業クローズアップ
 - (1) 産業機械部門/単なる機器メーカーからの脱却
 - (2) ロックドリル部門/ライフサイクルサポート(LCS)の進捗
 - (3) ユニック部門/移動式クレーン構造規格の一部改正対応

 **古河機械金属株式会社**

代表取締役社長
宮川 尚久

2025年ビジョンと中期経営計画2019の位置づけ



当社は“2025年ビジョン”において初めて「ROE」を経営指標として採用。
 中期経営計画2019は「ROE向上に向けた取り組みの強化・浸透」を行う期間と位置づける。

一方で、第2フェーズに向けては事業活動とESGの統合的志向も推し進めていく。

部門別業績の進捗 / 売上高 (2018年11月7日発表時点)

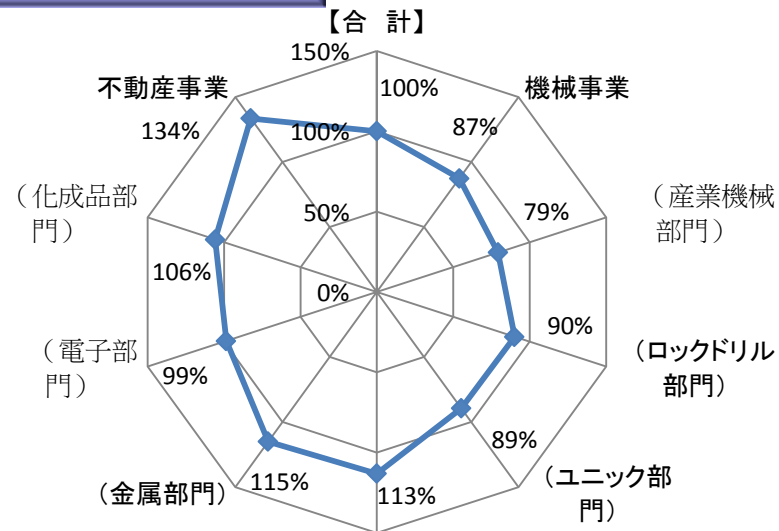
【前提条件】	2019年度想定	2017年度実績	2018年度想定
為替(円/USD)	110 円/USD	110.9 円/USD	110.1 円/USD
LME銅価格	6,000 USD/t	6,444 USD/t	6,344 USD/t

【売上高】

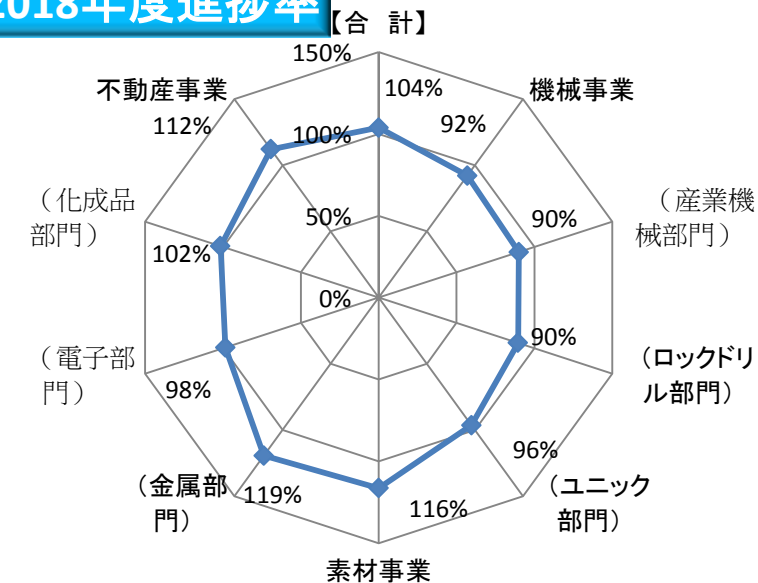
(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2019年度 (イメージ)	2017年度 (実績)	進捗率	2018年度 (予想)	進捗率
機械事業	84,100	73,453	87%	77,500	92%
産業機械部門	20,000	15,871	79%	18,000	90%
ロックドリル部門	33,500	30,199	90%	30,000	90%
ユニック部門	30,600	27,381	89%	29,500	96%
素材事業	79,600	89,987	113%	92,600	116%
金属部門	67,200	77,334	115%	80,200	119%
電子部門	6,400	6,307	99%	6,300	98%
化成品部門	6,000	6,344	106%	6,100	102%
不動産事業	2,500	3,338	134%	2,800	112%
その他	1,400	916	65%	1,100	79%
【合計】	167,600	167,695	100%	174,000	104%

2017年度進捗率

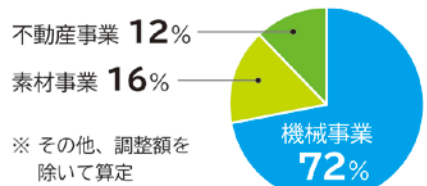


2018年度進捗率



部門別業績の進捗 / 営業利益 (2018年11月7日発表時点)

2019年度 営業利益構成イメージ ※



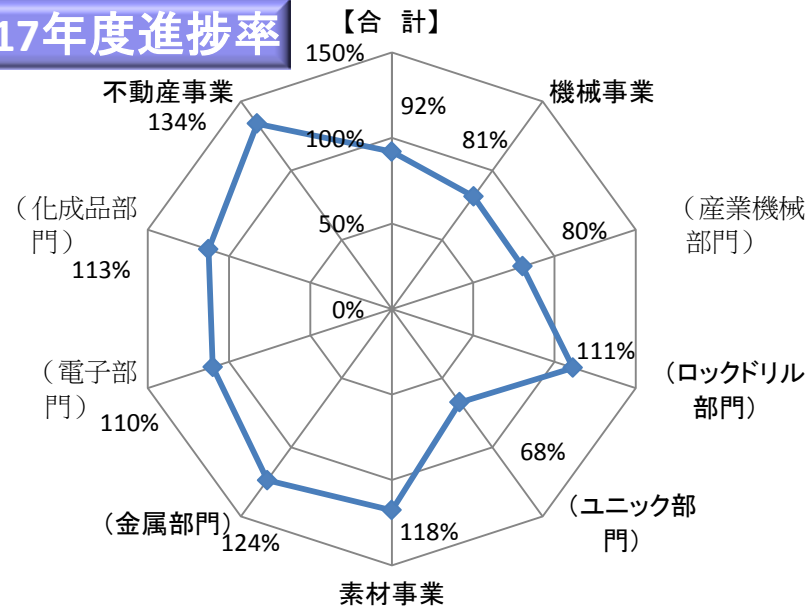
中期経営計画2019では
機械事業をコア事業と位置づけ、
持続的拡大に取り組んでいます。

【営業利益】

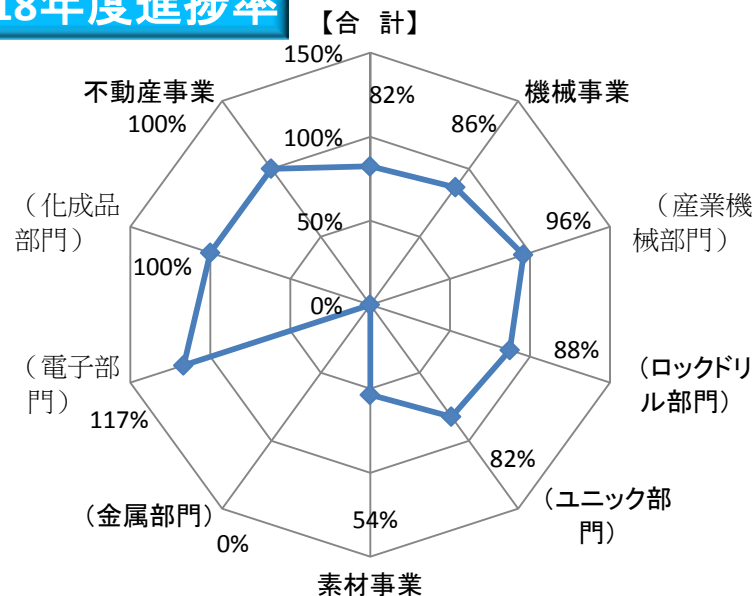
(単位:百万円、単位未満切り捨て)

	2019年度 (イメージ)	2017年度 (実績)	進捗率	2018年度 (予想)	進捗率
機械事業	6,250	5,083	81%	5,400	86%
(*構成比)	(72%)	(63%)	-	(68%)	-
産業機械部門	1,250	1,005	80%	1,200	96%
ロックドリル部門	1,600	1,782	111%	1,400	88%
ユニック部門	3,400	2,295	68%	2,800	82%
素材事業	1,400	1,648	118%	750	54%
金属部門	700	867	124%	0	0%
電子部門	300	330	110%	350	117%
化成品部門	400	451	113%	400	100%
不動産事業	1,000	1,339	134%	1,000	100%
その他	△40	△196	-	△100	-
調整額	△110	△55	-	△50	-
【合計】	8,500	7,820	92%	7,000	82%

2017年度進捗率

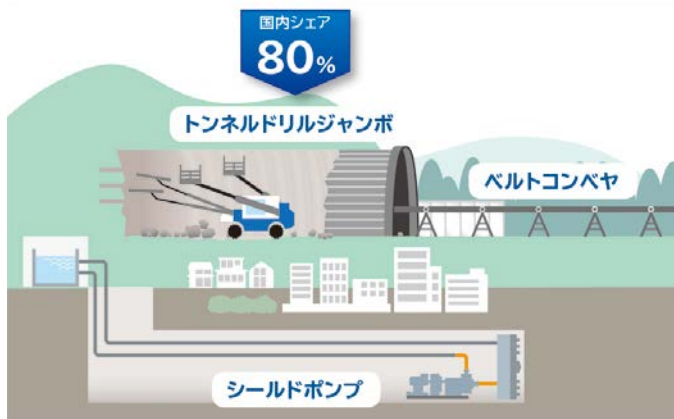


2018年度進捗率

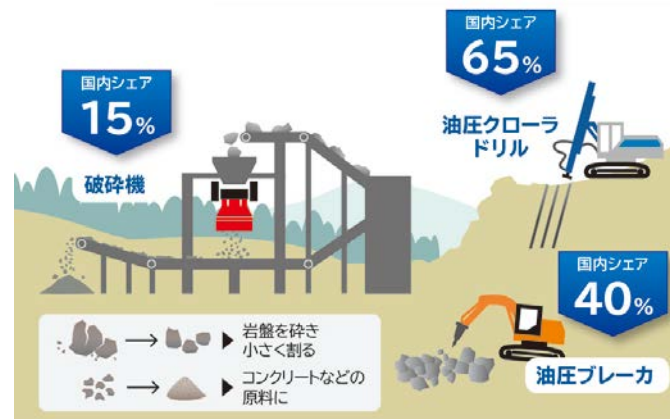


機械事業の事業領域と製品シェア（おさらい）

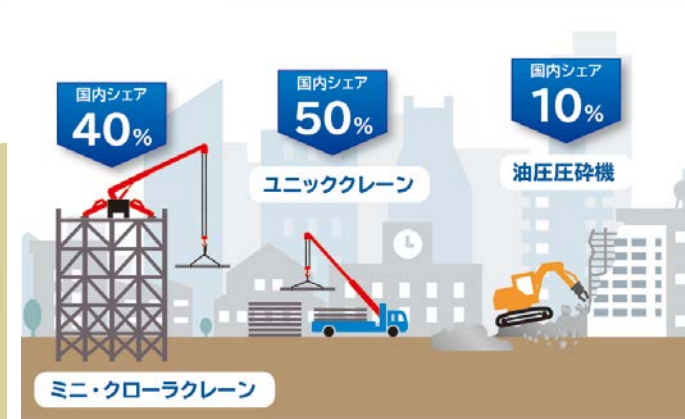
トンネル工事



コンクリート



土木・建設現場



機械事業の製品群は、インフラ整備にかかる各種現場で使用され、国内で高いシェアを有しています。

トンネル工事現場

…整備新幹線、リニア中央新幹線、高速道路等

- ・トンネルドリルジャンボ(シェア80%)
岩盤に火薬装填用の孔を開ける機械
- ・シールドポンプ
掘削した土砂を水で圧送するポンプ
- ・ベルトコンベヤ
大量の土砂を効率よく搬送する機械

コンクリート原料採掘現場

…砕石や石灰石などの露天掘り鉱山等

- ・油圧クローラドリル(シェア65%)
岩盤に火薬装填用の孔を開ける機械
- ・油圧ブレーカ(シェア40%)
岩石を小割するショベルのアタッチメント製品
- ・破碎機(シェア15%)、スクリーン
プラント内で岩石を破碎し、篩分する機械

土木・建設現場

…道路工事、ビル等の建設現場、解体現場等

- ・ユニッククレーン(シェア50%)
資材の運搬、積み降ろしするトラック搭載型クレーン
- ・ミニ・クローラクレーン(シェア40%)
狭い場所に自走して作業するクレーン
- ・油圧圧砕機(シェア10%)
鉄骨等を圧砕するショベルのアタッチメント製品

トンネルドリルジャンボ



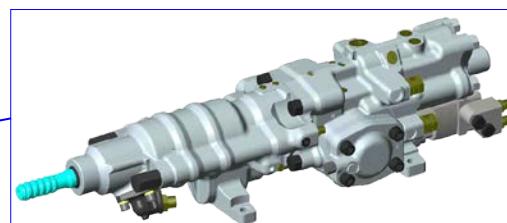
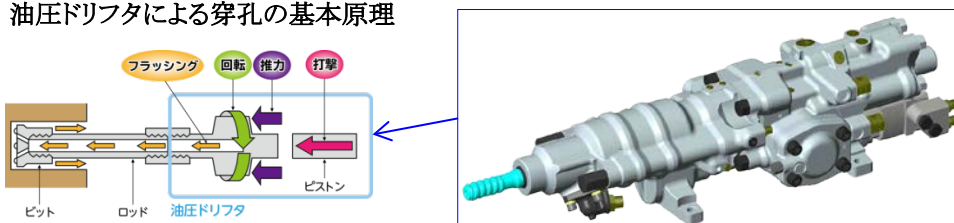
山岳トンネル工事の切羽（掘削現場）で使用され、岩盤に火薬装填用の孔をあける機械。当社は国内唯一のメーカーで、青函トンネルや関越トンネル、黒部第4発電所導水路など多くの現場で活躍。最近ではリニア中央新幹線の工事にも使用されています。

ブラストホールドリル



露天掘り鉱山の岩盤に発破用の火薬を装填する孔をあける機械。油圧クローラドリルやダウンザホールドリルなどがあり、主に碎石、石灰石の採掘現場で使用されます。

油圧ドリフタによる穿孔の基本原則



1分間に2,000-5,000打撃、80-200回転、推力1-2トン

心臓部である「油圧ドリフタ」を一貫生産できるのが強み

- ・さく岩機メーカーとして100年以上の経験値とノウハウを活かした独自の設計理論
- ・高い熱処理技術と1/1000mmの機械加工精度
- ・使用条件に応じた部品毎の最適熱処理と加工により高品質を確立

ベルトコンベヤ



大量の土砂を搬送する機械。ダンプ輸送に比べ工期短縮や渋滞回避等が可能。
ベルトコンベヤの設計、製造、施工、運転管理まで一括で対応できるのが当社の強みです。

ユニッククレーンG-FORCE



心臓部の油圧機器を内製しているからこそできる、当社ならではの強みを活かした最新フルモデルチェンジ機。
操作性、安全性を格段に高め、使用するユーザーや購入する経営者からも高い評価を得ています。

機械事業の基本戦略(おさらい)

インフラ整備に関連した国内需要を確実に取り込むと同時に、
 各部門の基本戦略に則り、あるべき姿の実現に向け、
 新たな成長の礎を構築していきます。

<産業機械部門>

セクションプラント工事案件の取り込みやコントラクター事業の拡大を図る等、単なる機器メーカーからの脱却を目指して、エンジニアリング力の強化を図り、国内市場における事業基盤の拡充に取り組みます。

<ロックドリル部門>

ライフサイクルサポート機能の強化による、フロービジネス(製品販売)・ストックビジネス(アフターマーケット)両輪での収益拡大と、ドリル製品群の収益基盤の強化を目指して、国内サービスサポート体制の充実と海外販売チャネルの確立に取り組みます。

<ユニック部門>

国内販売での安定的な収益確保とストックビジネス及び海外販売での収益拡大を目指して、ユニッククレーンの高機能化・高付加価値化などの差別化による競争力強化、中古ビジネスの推進、海外の販売店網の再整備と販売力強化に取り組みます。

産業機械部門/単なる機器メーカーからの脱却

■ 継続案件

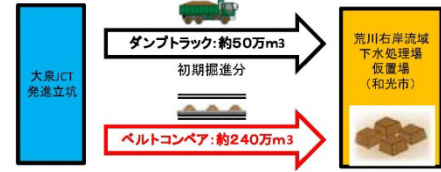
・東京外環道向け土砂搬送設備

約4.7kmの長距離曲走コンベヤを受注。
 設計・製造・据付を含む。

→フレームユニットを据付中(約50%済)

今期、引出コンベヤも追加受注。

受注規模 57億円強
 今期の進捗率予想
 約50%→約80%



フレームユニット設置工事(夜間)が進む外環道工事現場

・小名浜港湾国際バルクターミナル向け荷役設備

ベルトコンベヤ3基(合計約369m)、
 乗継建屋2基、トラックホッパ1基を受注。
 設計・製造・据付を含む。

→ベルトコンベヤのフレーム据付開始

受注規模 35億円強
 今期の進捗率予想
 数%→約40%



小名浜港湾(東港埠頭)の荷役設備位置

上: 設備イメージ(ベルトコンベヤ、トラックホッパ等)

ベルトコンベヤのフレーム設置工事状況

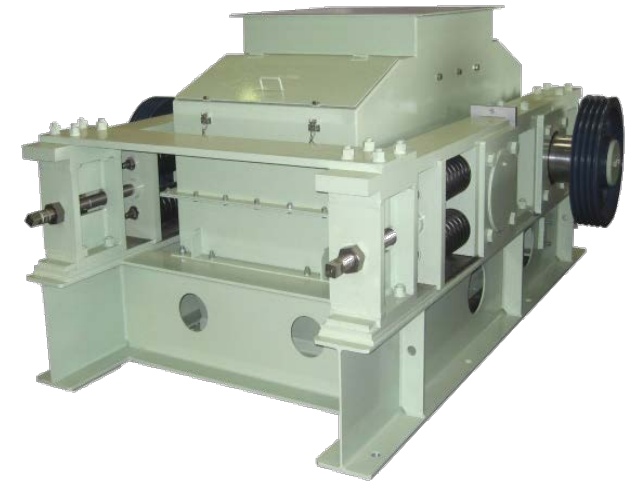


■新規案件

・特定廃棄物セメント固型化処理設備 (福島県双葉郡楡葉町)

前処理設備 (1次破碎機、2次破碎機、スクリーン、フィーダ等) 及び固型化処理設備の一部を受注。
設計・製造を含む。

受注規模
数億円程度



ローラクラッシャー

特定廃棄物セメント固型化処理設備

特定廃棄物 (焼却飛灰や焼却灰) を最終処分するために必要な前処理として、特定廃棄物をセメント固型化処理する設備。

この施設施工にあたり、JVから、当社は固型化処理設備の前処理工程 (粗破碎、粒度調整等) と固型化処理設備 (容器充填等) ほかを受注しました。

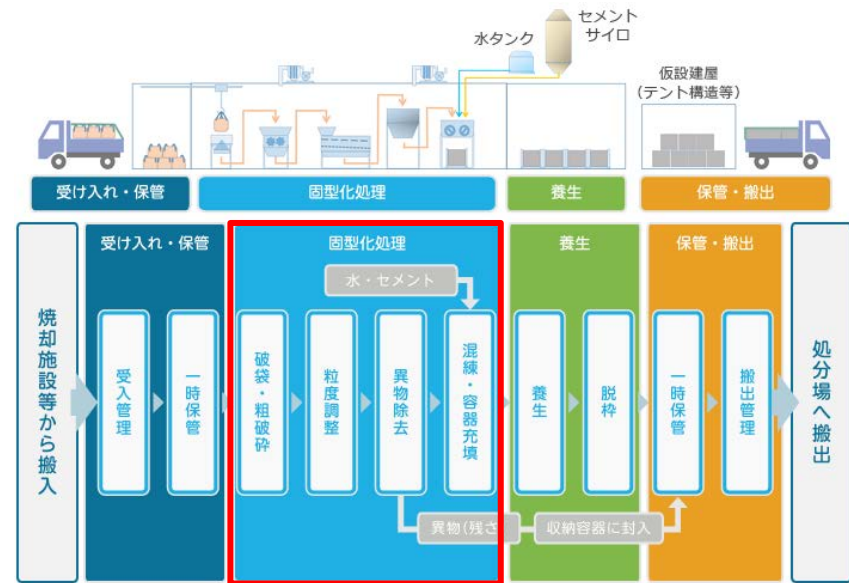
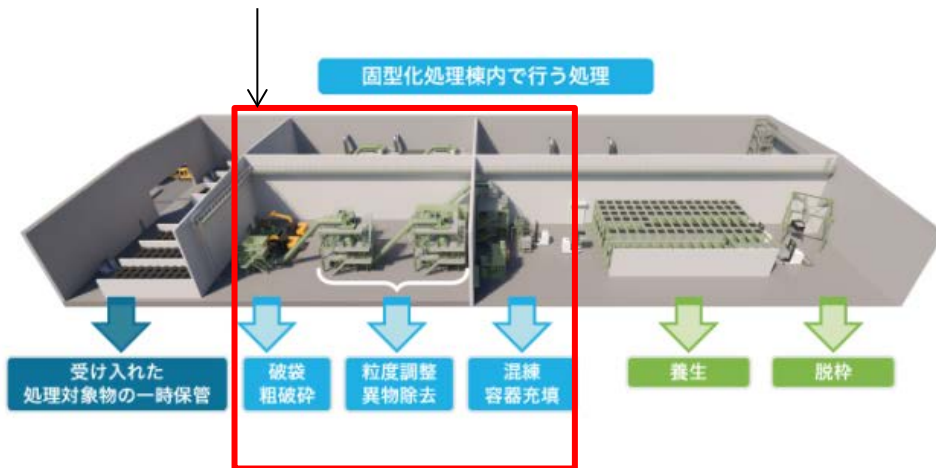


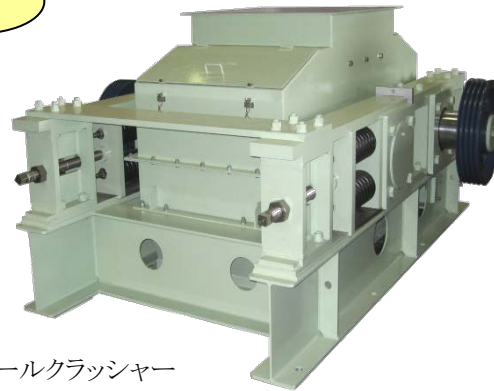
図: 環境省 特定廃棄物の埋立処分事業情報サイトより引用

産業機械部門/単なる機器メーカーからの脱却

■新規案件

- ・双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務 向けマテリアル機械
 ロールクラッシャー7台、スクリーン8台、ブリケッティングマシン4台、一部プラント設備を受注。

受注規模
 20億円強



ロールクラッシャー



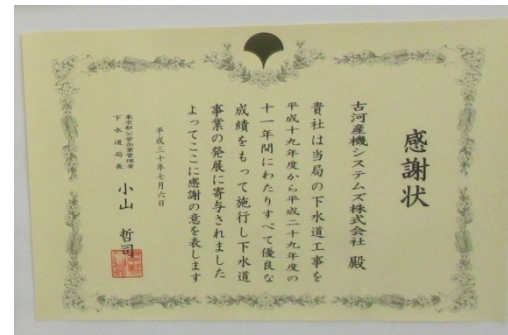
スクリーン



ブリケッティング
 マシン

◆トピックス

- ・東京都下水道局から『11年間以上工事施工成績優良業者』として表彰
 東京都発注のポンプ設備工事において、安全管理、品質管理、工程管理が非常に高い評価を得ていることによるもので、2017年度では11年連続での表彰は1社（古河産機システムズ株）のみ。
 技術実績評価型総合評価方式入札においても加点評価につながります。

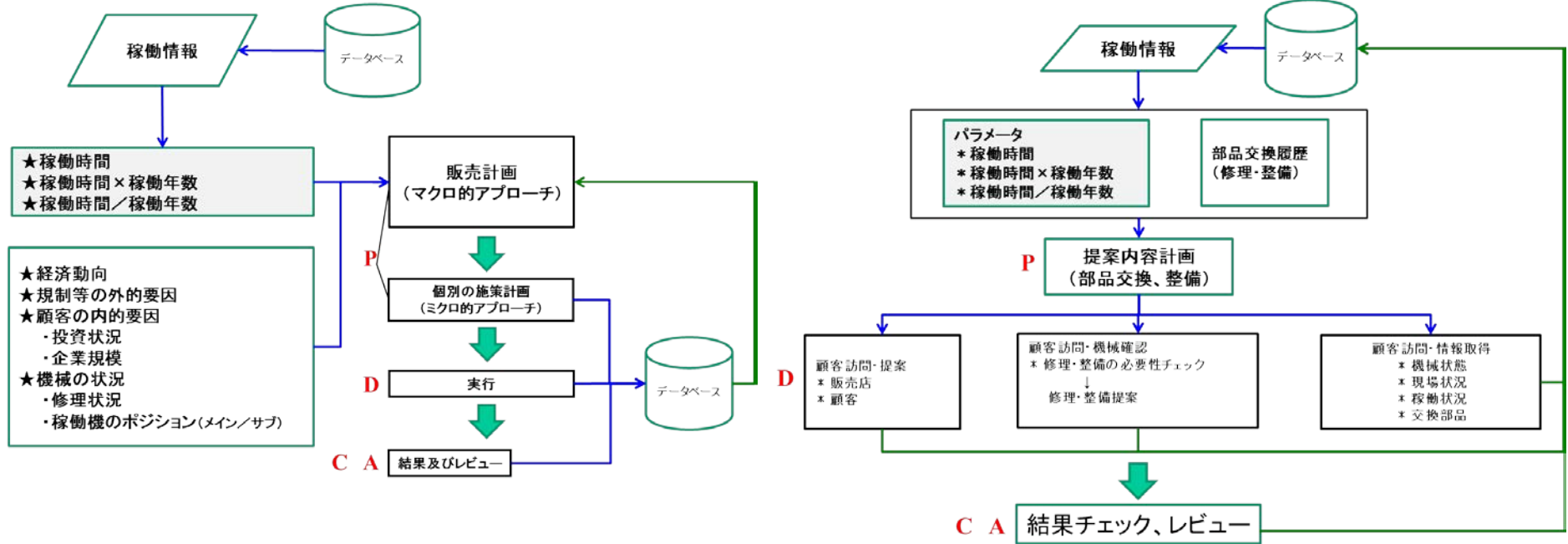


ロックドリル部門/ライフサイクルサポート(LCS)の進捗

■LCS情報の活用

本体販売

部品販売



本体及び部品販売において、LCS情報を活用しPDCAをまわすためのベースとなる稼働情報を収集中。

油圧クローラドリルの稼働情報(稼働時間)収集状況

国内 ほぼ100%

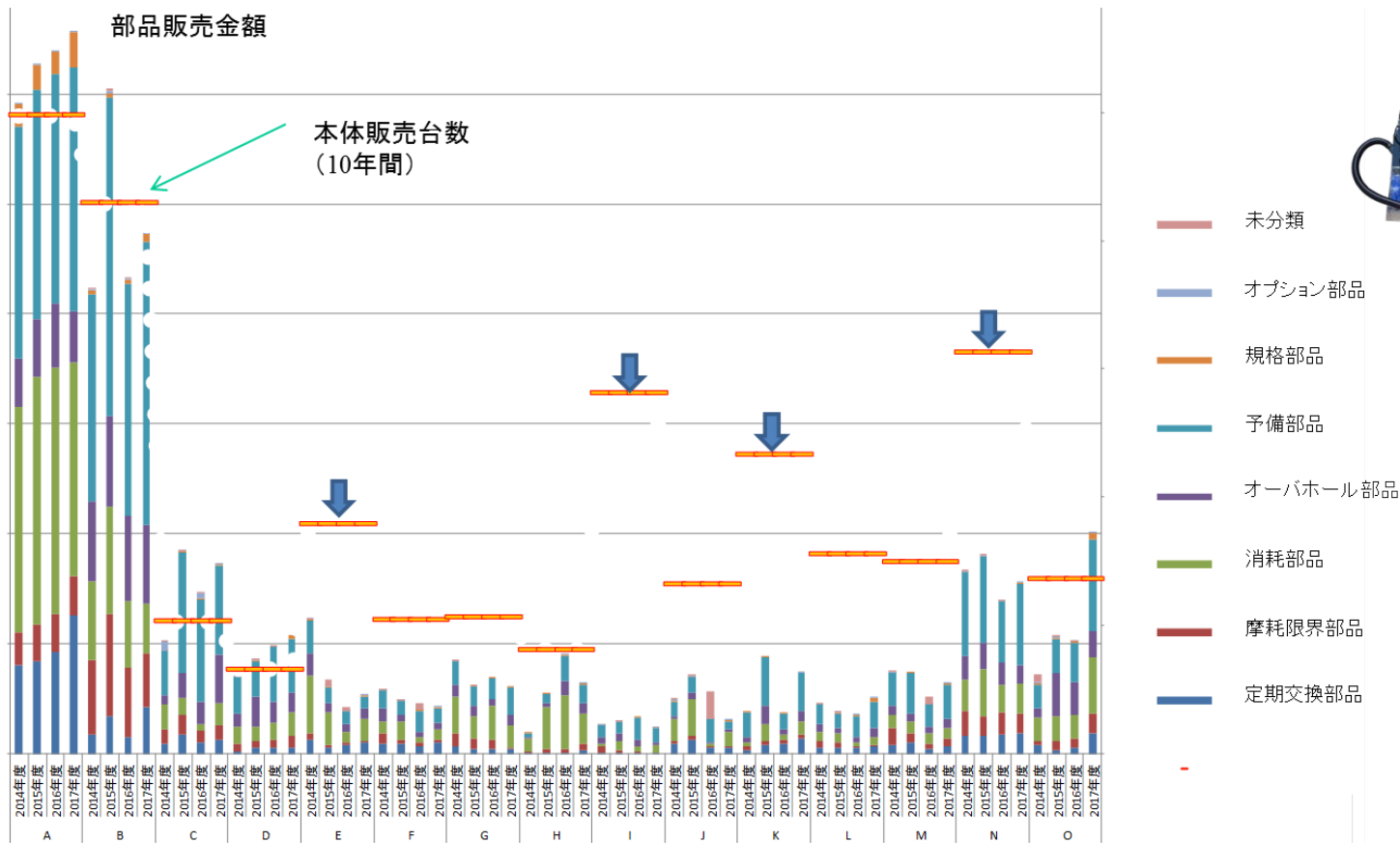
海外 2017年9月末 42% ⇒ 2018年9月末 50%

→さらに取得率を向上させるとともに情報の中身・鮮度を上げていく。

ロックドリル部門/ライフサイクルサポート(LCS)の進捗

■ 部品販売強化地域の選定と販売強化(海外)

地域別:油圧クローラードリルの部品販売金額と本体販売台数イメージ

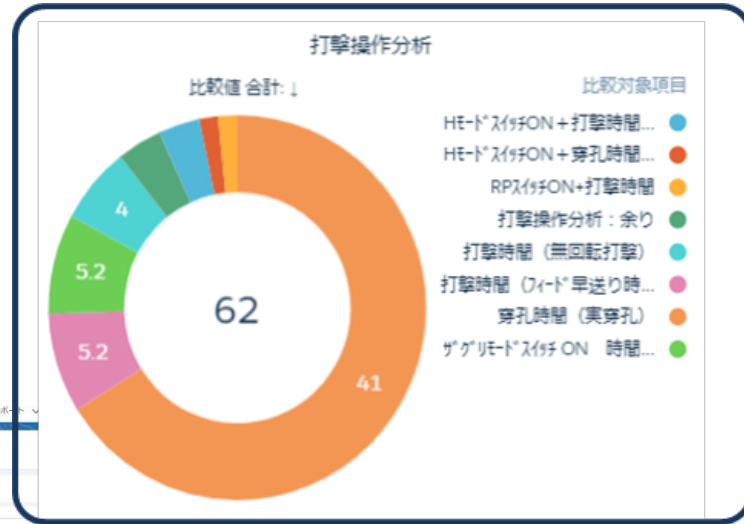
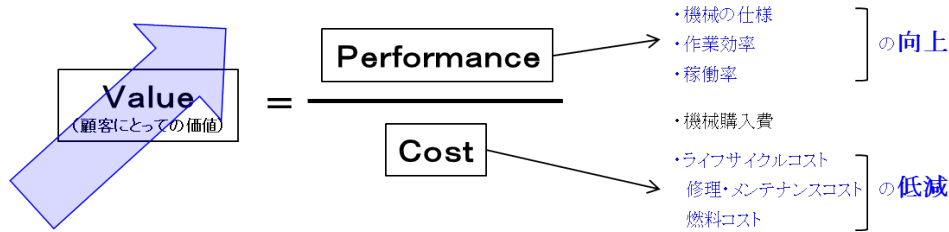


本体販売台数が多く、部品販売金額が伸びてない地域を部品販売強化地域として選定済み。

→対象となる国(E、I、K、N)に注力した販売戦略(キャンペーン、価格見直し等)を展開していく。

ロックドリル部門/ライフサイクルサポート(LCS)の進捗

■ 将来に向けた稼働管理システムの構築

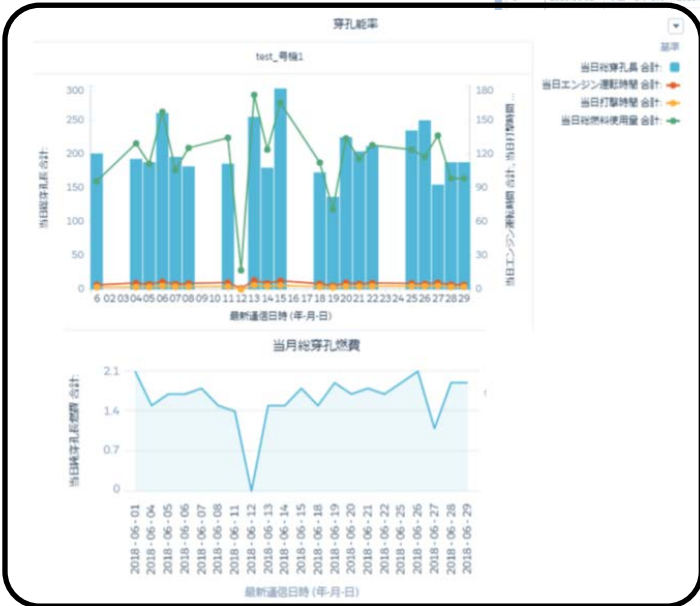


保守提案
・作業状況分析による
消耗品の交換提案

稼働管理システム(ドリルネット)画面

最新通信日時	機名	納庫日 (出庫日)	積算エンジン運転時間	積算打撃時間	積算走行時間	積算燃料	
2018-05-31	クローラドリル	2018-05-31	4.1	2	0.3	2	4.1
-31			9.8	4.2	0.0	4	5.7
-31			14.5	6.4	0.8	8	4.7
-31			21.4	9.5	1.1	9	6.9
-31			20.1	11.9	1.3	11	4.7
-31			31.5	14.4	1.5	13	5.4

現在、国内で稼働する油圧クローラドリル(25台)に稼働管理装置を搭載し、詳細な稼働情報を収集。顧客のビジネスに対しベストパフォーマンスを提供するために、得たデータの可視化・分析を進めている。



毎日の穿孔作業能率分析

- ・1日の穿孔本数
- ・1時間の穿孔距離

現場への提案

- ・作業効率アップ
- ・ランニングコスト軽減(燃費改善等)

稼働状況分析

- ・1m当りの燃費
- ・1時間当りの燃費

将来、稼働管理装置を搭載した油圧クローラドリルを展開し、稼働管理システムを運用することで顧客にとっての価値を最大化していく。

同時に、部品販売、整備・サービス等のストックビジネスを取り込み、収益拡大を目指していく。

ロックドリル部門/ライフサイクルサポート(LCS)の進捗

■油圧ブレーカの自社整備によるストックビジネス強化(国内)

油圧ブレーカの自社整備を東北地区と関西地区で開始(2018年5月プレスリリース)

→整備用の部品販売増を図る。

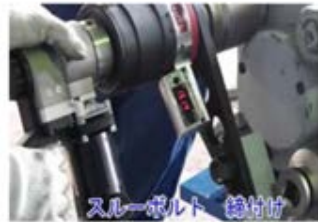
ポイント

- ・メーカー品質の整備
- ・整備記録データ化による安心サポート
- ・計画的整備の提案

リビルドした油圧ブレーカ及び油圧圧砕機シリンダ(左)



専用整備治具を使用したメーカー品質の整備(油圧ブレーカ)



分解・点検報告書		機種	FX220	機番	1638	検査番号		rev.	
4 ロッド・ロッドピン・ストップピン									
ロッド全長		Photo(s) if any				ロッドをフロントヘッドに押し込んだ状態での寸法			
機種	FX220	製品時	725 mm	使用限界	405 mm				
所別		測定値	550 mm	判定	使用可能	状態			
ロッドピン									
Photo(s) if any									
機種	FX220	製品時	80 mm	使用限界	77 mm				
	L	測定値		判定	未測定	状態			
	R	測定値		判定	未測定	状態			
ロッドピンは所部に交換して下さい。									
所別									

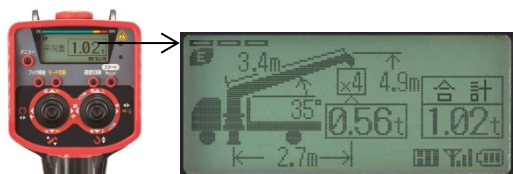
■ユニッククレーン

・厚生労働省による移動式クレーン構造規格の一部改正に対応した安全強化モデルを開発・販売開始

当改正は厚生労働省より2018年2月26日に告示
現在は経過措置期間(1年間) →従来モデルの駆け込み需要発生

2019年3月1日以降は当改正に準拠した製品製造のみとなるため
10月からは安全強化モデルでの販売に切り替え(2018年10月1日付プレスリリース)

ユニッククレーン
G-FORCE



安全強化モデル(いずれか選択)

- ・『ML警報型』
荷重が定格荷重を超える前に警音を発するモデル
- ・『ML停止型』
定格荷重を超えた場合に直ちにクレーン作動を自動的に停止するモデル
- ・『高機能・ML停止型』
ML停止型に半自動運転機能をプラスしたモデル

→従来モデルよりも販売価格は上昇。
操作性・効率性・安全性を格段に高めた
新型G-FORCEシリーズで拡販していく。

液晶ラジコンJOY
吊り荷重の加算表示機能

移動式クレーンの製造者及び使用者の皆様へ

荷重計以外の過負荷防止装置の備え付けを義務化するなど 移動式クレーン構造規格が改正されました

移動式クレーンによる死亡災害は、年間約30件発生しています。
事故を防ぐとともに、移動式クレーンの構造に関する国際基準への整合を図るため、以下の点について、「移動式クレーン構造規格」(平成7年労働省告示第135号)が改正されましたので、ご注意ください。

- ① つり上げ荷重3トン未満の移動式クレーン等の、過負荷防止装置について
- ② 移動式クレーンの設計法について(限界状態設計法の追加)
- ③ 前方安定度の計算式について(計算式の変更)
- ④ その他(穴あけの方法の性能規定化、最新の日本工業規格への整合化 など)

- ① つり上げ荷重3トン未満の移動式クレーン等について、荷重計以外の「過負荷を防止するための装置」を備えることが義務付けられます。(第27条)

対象：つり上げ荷重3トン未満、又はジブの傾斜角及び長さが一定である移動式クレーン

【改正前】荷重計は「過負荷を防止するための装置」として認められていました。

【改正後】荷重計は「過負荷を防止するための装置」として認められなくなり、
定格荷重制限装置^{※1}、定格荷重指示装置^{※2}などの装置を備えることが義務づけられます。

<経過措置> 平成31年3月1日前に製造された移動式クレーン、又は平成31年3月1日において現に製造している移動式クレーンの規格については、なお従前の例によることができます。

- ※1 定格荷重制限装置
定格荷重を超えた場合に、直ちに当該移動式クレーンの作動を自動的に停止する機能を有する装置
- ※2 定格荷重指示装置
定格荷重を超えるおそれがある場合に、当該荷の荷重が定格荷重を超える前に警音を発する機能を有する装置



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

2018.3

厚生労働省HPより引用

ご清聴有難うございました。

